

# 次期学習指導要領の理解を深めるための9つの視点

答申から次期学習指導要領のキーワードとして押さえておきたい事項を

9つピックアップ。それらについて、文部科学省の大杉教育課程企画室長と、

中央教育審議会教育課程部会の委員を務めた教師が、

本誌の読者モニターからの疑問や質問への回答とともに解説する。

今回の答申から取り上げた9つのキーワードは、その意味やねらいを理解しておきたい、次期学習指導要領における重要事項だ。

「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」など、耳慣れない言葉があるかもしれないが、その内容を見ると、各学校が学校全体で教育の質を高められるよう打ち出された改善の視点であることが分かる。そして、育成が求められる資質・能力は、これまでの学校教育で育成してきた力とは異なる全く新しい力ということではない。6つのキーワードを解説している文

## キーワードの解説者

キーワード

- 1 社会に開かれた教育課程
- 2 育成を目指す資質・能力
- 3 各教科等の特質に応じた見方・考え方の主体的・対話的で深い学び
- 4 テクニク・ラーニング
- 5 目標に準拠した評価とその観点
- 6 カリキュラム・マネジメント



**大杉住子** おおすぎ すみこ  
文部科学省において幼児教育、大学教育、キャリア教育など、教育行政を中心に担当。2014年から現職。

中央教育審議会教育課程部会

キーワード7 地理総合／歴史総合  
高等学校の地理・公民科目の在り方に関する特別チーム委員



**高木 優** たかぎ たかすけ  
神戸大学附属中等教育学校  
教職歴22年。同校に赴任して7年目。進路指導部長。担当教科は地理・公民（地理）。

キーワード8 理数探究  
高等学校の数学・理科にわたる探究的科目の在り方に関する特別チーム委員



**岩田久道** いわた ひさみち  
千葉県・私立渋谷教育学園  
幕張中学校・高校  
教職歴32年。同校に赴任して7年目。担当教科は理科（化学）。

キーワード9 総合的な学習の時間  
生活・総合的な学習の時間  
ワーキンググループ委員



**恩田 徹** おんだ たかお  
京都府・京都市立堀川高校  
校長  
教職歴31年。同校に赴任して3年目。

\*プロフィールは2017年3月時点のものです

# 社会に開かれた教育課程

次期学習指導要領全体に  
通底する基本となる理念

**Q** 「社会に開かれた教育課程」とはどういう意味でしょうか。

**A** 答申には、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」など、次期学習指導要領に向

図1 社会に開かれた教育課程とは

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

\* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

け重要となる事項が示されていますが、それらすべての基盤となる考え方が「社会に開かれた教育課程」です。「なぜ、資質・能力を育むのか」「なぜ、カリキュラム・マネジメントが必要なのか」、その理由のすべてが「社会に開かれた教育課程」の実現に帰着しています。

答申では、3つの側面から「社会に開かれた教育課程」について説明しています（図1）。①は、各学校が社会とのつながりを踏まえて学校教育目標を策定し、それを実現する教育課程とともに社会と共有するということです。②は、自校の生徒が社会で生きていくために必要な資質・能力を明らかにして育むということであり、「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」につながります。③に示した社会の資源の活用は、「カリキュラム・マネジ

メント」の重要な側面に直結します。

学習指導要領の役割は、学校で教える内容とその体系を示すだけでなく、子どもが社会に出た時に必要となる力を、学校が育むにあたっての手がかりを示すことにもあります。そこで、次期学習指導要領では、総則の前に新たに「前文」を設け、「社会に開かれた教育課程」という改訂の方向性を共有することとしています。

**Q** 地域や企業と連携した活動は既に行っています。それをどう発展させれば、「社会に開かれた教育課程」となるのでしょうか。

**A** コミュニティ・スクールが全国的に広まり、学校と地域が教育目標を共有し、両者が連携しながら教育活動をつくり上げる仕組みは整ってきました。既に行われている個々の教育活動が、教育課程を軸に有機的に結びつけられるよう編成し

ていただきたいと考えています。

教育課程の編成主体は学校です。社会のニーズが先にありきで学校が受け身になるのではなく、生徒が将来活躍する時にはどのような社会になっいて、そこで生きていくために育むべき力は何かを考え、社会と自校のかかわりや教育課程の役割を明確化することがますます求められると思います。

## 読み解きポイント

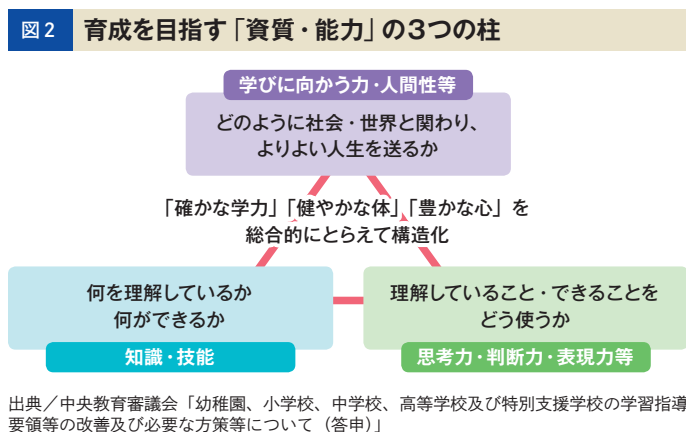
1. 「資質・能力」「見方・考え方」などに通底する、次期学習指導要領において実現を目指す基本的な理念
2. 社会と自校のかかわりを捉え、生徒や学校と社会とのつながりを考えた教育課程を編成する

# 育成を目指す資質・能力

教育課程全体で育みたい資質・能力が  
3つの柱で構造的に示される

**Q** 次期学習指導要領では、育みたい「資質・能力」が大きく取り上げられています。どのような背景があるのでしょうか。

**A** 次期学習指導要領では、従来の学習内容（コンテンツ）だけでなく、それを学ぶことで「何ができる



ようになるか」（コンピテンシー）という視点で、学校教育で育みたい資質・能力を取り上げています。

「コンテンツ・ベース」と「コンピテンシー・ベース」のどちらが重要かと対立的に捉える議論がなされがちですが、研究や実践が進む中で両者はともに育まれる関係にあることが明確になってきました。「資質・能力」と言うと、「思考力」や「主体性」「協働性」などはイメージしやすいと思いますが、次期学習指導要領では、「知識・技能」も大切な資質・能力の要素の1つと位置づけています。そして、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と合わせて、育みたい資質・能力に共通する要素を大きく3つの柱に整理しました（図2）。

注目していただきたいのは、「知識」のあり方です。個別的・事実的な知識をただ記憶すればよいのではなく、「生きて働く知識」、すなわち、

習得した個別の知識を既存の知識と関連づけて深く理解し、ほかの学習や生活の場面で活用できるように確かなものに高める必要があると位置づけました。

**Q** どのような資質・能力を、どのように育めばよいでしょうか。

**A** 「資質・能力」の3つの柱は、各教科等だけでなく、教科等横断的な力（言語能力や情報活用能力などの学習の基盤となる力や、現代的な諸課題に対応する力）に共通する要素です。これらの力は、教科学習のみならず、「総合的な学習（探究）の時間」や特別活動などを含む教育課程全体で計画的・体系的に育んでいく必要があります。

その具体化に向けては、学校全体で育てたい資質・能力を目標として可視化し、各教科等のどの場面でのような資質・能力を育むのかを体系的に整理することが大切です。今行っている授業でも、「生徒が知識

を活用して思考する場面」「生徒が

自らの学びを自覚し、振り返る場面」などがあると思います。そうした場面を生徒の学びの流れの中でどう生かすか、育成したい資質・能力を明確にし、単元や題材のまとまりの中での組み立てを考えることから始めてみるとよいでしょう。

次期学習指導要領では、各教科等において育みたい資質・能力が3つの柱で整理されます。指導計画を作る際の参考にしてください。

## 読み解きポイント

1. 育みたい資質・能力に共通する要素を、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の大きく3つの柱に整理した
2. 「知識・技能」は、様々な学習や生活の場面で活用できるものに高めることを目指す



図3 各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ (中学校、抜粋)

言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。
社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりによって捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに注目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに注目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

出典/中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

キーワード  
3

# 各教科等の特質に応じた見方・考え方

「深い学び」を促進し、生活の中でも重要な働きをするもの

**Q** 現行教育課程でも「見方や考え方」が使われていますが、次期学習指導要領で改めて「見方・考え方」を取り上げた意図を教えてください。

**A** 子どもたちに必要な資質・能力を育てていくためには、各教科をなぜ学ぶのか、それを通じてどういった力が身につくのかという、教科を学ぶ本質的な意義を明らかにする必要があります。子どもたちは、各教科等の学びの中で、習得した知識を活用したり、身につけた思考力を発揮させたりしながら、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、問題を思いだして解決策を考えたりします。その過程で、物事を捉える視点や考え方が鍛えられていきます。これが「見方・考え方」です。そこには教科の特質が表れます。例えば、国語では言葉による見方・考え方、美術では造形的な見方・考

え方です。このように、「見方・考え方」は資質・能力の育成に重要な役割を果たすことから、次期学習指導要領に向けて改めて議論し、具体的な内容を整理しました(図3)。

「見方・考え方」は、社会人になってからも重要な働きをします。例えば、企画を提案する際には、「数学的な見方・考え方」を働かせて物事をデータで捉えて分析をしたり、「言葉による見方・考え方」を使って言葉を吟味して説明したり、「造形的な見方・考え方」を使って構想を豊かに表す工夫をしたりします。だからこそ、すべての生徒が多様な教科を学ぶ意義があるのです。

**Q** 「見方・考え方」は、どう評価すればよいのでしょうか。

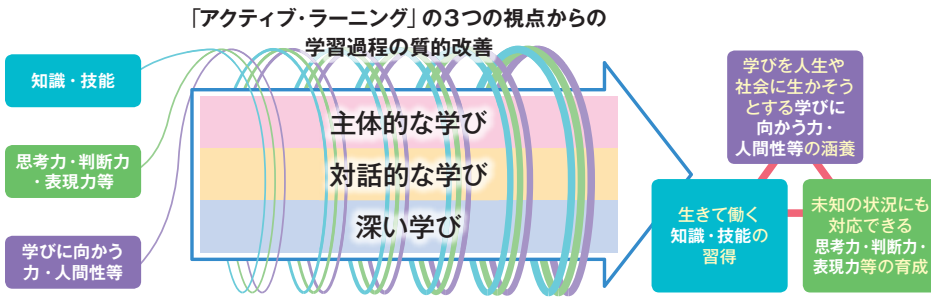
**A** 「資質・能力」は単元等でつきたい力として設定されるもので、観点別評価の対象(P.13参照)

となりませんが、「見方・考え方」は評価の対象ではなく、生徒がそうした見方・考え方を働かせて思考するようになり、教師が意識して指導するものと捉えてください。生徒が「見方・考え方」を働かせやすい学習課題や場面をどのように設定するかが大切です。そのように授業を工夫することが、キーワード4で触れる「深い学び」を促すこととなります。

読み解きポイント

1. 「資質・能力」を育むため、各教科を学ぶ本質的な意義が明らかにされ、「見方・考え方」はその中核をなす
2. 「見方・考え方」は、教科の特質に応じて異なるため、すべての生徒が多様な教科を学ぶ意義がある

図4 「資質・能力」の育成と「主体的・対話的で深い学び」の関係



出典／中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

キーワード  
4

# 主体的・対話的で深い学び （アクティブ・ラーニング）

学習活動を通して「見方・考え方」を働かせる深い学びを目指す

**Q** アクティブ・ラーニング（以下、AL）の捉え方は教師によって様々です。次期学習指導要領で求められるALはどのような学びですか。

**A** 「AL」という言葉が多義的に捉えられる言葉でもあるため、中央教育審議会で議論を重ねていただき、「主体的・対話的で深い学び」と整理しました。具体的には次のような学びです。

「主体的な学び」は、生徒が学びに興味や関心を持って向かい、次の学びにつなげることです。生徒に学習の見通しを持たせ、振り返りをして身についたことを自覚させることなどが挙げられます。「対話的な学び」は、他者の考えと交流させながら自身の考えを広げ、深める学びです。他者の考えには、友人や教師、地域のひととの対話だけでなく、読書を通じた筆者との対話や、歴史上の人物の考え方との交流などを通じても触れることができるでしょう。そ

して、「深い学び」は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学びです。知識を相互に関連づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする過程で、各教科等の「見方・考え方」を働かせるような学びを指します。

この3つの視点は、授業改善の視点としては個別のもですが、生徒の学びの過程では一体として実現され、相互に影響し合っています（図4）。ただ、1回の授業で3つの視点すべてを実現しなければならぬというわけではありません。単元や題材のまとまりの中で授業づくりをすることが大切です。

**Q** 3つの視点の学びの実現に向けて、授業をどう見直せばよいのでしょうか。

**A** 「主体的・対話的で深い学び」は、特定の指導方法のことではありません。

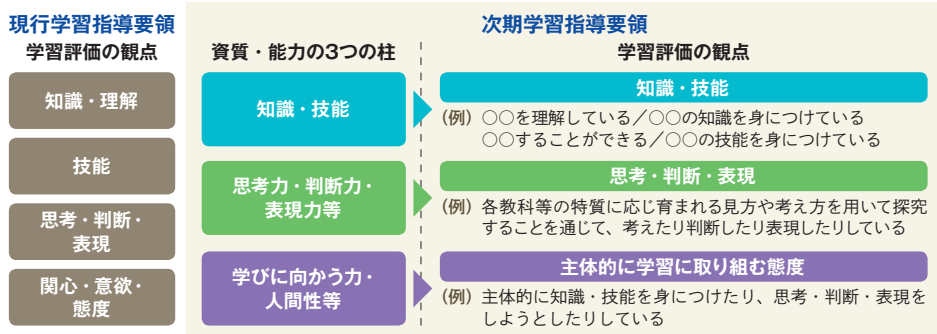
ません。これまでの授業実践の中から、生徒の学びを資質・能力の育成につなげるために重要となるポイントを整理したのが、3つの視点です。探究的な学習に限らず、教科学習の中でも実現される学びです。

自らの授業やほかの先生方の授業を3つの視点で見直すことが、授業を見る目を養うことになり、生徒の学ぶ姿から改善点を見いだし、指導の工夫を考え出すことにつながっていくと思います。

## 読み解きポイント

1. 「主体的・対話的で深い学び」は、授業改善のための視点であり、特定の指導方法のことではない
2. 単元や題材のまとまりの中で実現できるよう、これまでの実践の蓄積を生かしながら指導計画を立てる

図5 各教科等の学習評価の観点



\*中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

キーワード  
5

# 目標に準拠した評価とその観点

## 資質・能力のバランスの取れた多面的な評価の工夫が必要

**Q** 学習評価の観点とは、どのような観点になりますか。

**A** 次期学習指導要領では、各教科等の教育目標や内容は「資質・能力」の3つの柱に基づいて再整理されて示されます。目標に準拠した評価の実現のため、学習評価の観点もこれに応じて「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ（図5）に整理され、指導要録の様式も改善されます。なお、「学びに向かう力・人間性等」に含まれる感性や思いやりなどは、観点別学習状況の評価になじまないことから、評価の観点では「主体的に学習に取り組む態度」と設定し、幅広い人間性等にかかわることについては個人内評価を通じて見取っていくものとなりました。

各学校で評価を行う際に大切なのが単元等のまとまりを見通した計画

です。「資質・能力」は、単元や題材のまとまりの中で育まれていきま

**Q** 3つの観点での評価は、どのように進めればよいでしょうか。

**A** 「資質・能力」をバランスよく評価するためには、知識量のみを問うペーパーテストの結果にとどまらない、多面的な評価の工夫が必要となります。論述や発表、話し合いなど、生徒が学んだことを活用して思考・判断・表現する場面を設けるとよいでしょう。特に「主体的に学習に取り組む態度」では、挙手の回数やノートの取り方など、形式的な活動で評価されることが懸念されています。単元や題材のまとまりの中で生徒が自ら学習の目標を持ち、

読み解きポイント

1. 学習評価の観点は、「資質・能力」の3つの柱に応じた「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理される
2. 生徒が学んだことを活用して思考・判断・表現する場面を設け、多面的に評価する

見通しと振り返りの機会を通して学習に対する自己調整を行おうとしているのを見取るなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を改善していくことが欠かせません。

国立教育政策研究所では、学習指導要領を手がかりにして教員が評価規準を設定し、子どもの学びを見取っていく際の参考資料を製作中です。そちらもぜひご覧ください。

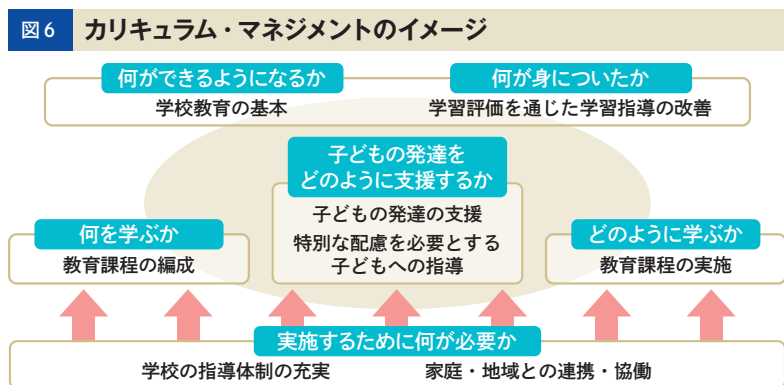


# カリキュラム・マネジメント

教育課程を軸に、学校全体で  
教育活動の改善サイクルを回す

**Q** 「カリキュラム・マネジメント」とは何か、いまだによく分かっていません。

**A** 新しい学習指導要領では、「カリキュラム・マネジメント」を、



\* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

「生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」と定義することになっています。各学校で既に行われている教育や学校運営の活動が個別の改善にとどまっていなかったり、教育課程とのつながりで考えられているかを問い直していただくことが重要です。

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けては、生徒が「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」などの点を踏まえて各学校で教育課程を編成し、生徒の実態を踏まえて見直しを図っていく

ことが求められます（図6）。また、その際、教科横断的な視点を持って考えることや、家庭や地域など外部の資源を取り入れていくことも重要となります。このような改善サイクルを回すためには、教科や学年を超えて、教職員全員で取り組んでいく必要があります。教科内、学年内にとどまらず学校全体で効果的に行うために「カリキュラム・マネジメント」が打ち出されたのです。

**Q** 「カリキュラム・マネジメント」には膨大な時間と力がかかります。うで、実施をためらってしまいます。

**A** 「カリキュラム・マネジメント」のすべてを一気に進めようとせず、課題を明確にして、できる取り組みから着手することが重要です。例えば、学校教育目標が各教科の授業に結びついていないという場合でも、そもそも学校教育目標が教師間で共有されていないのであれば、それを浸透させる方法を考えることが

## 読み解きポイント

1. 「カリキュラム・マネジメント」とは、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、学校全体で教育活動の改善を進めていくこと
2. 教育改善を個々の活動にとどめず、自校の教育課程とのつながりで考える

第一歩となります。学校教育目標が各教科等の目標とつながりにくい内容なのであれば、それをつなげるための中間的な目標を立てることが必要になるかもしれません。

生徒や地域の現状を把握した上で目標となっているか、目指す資質・能力は明確か、地域との連携は十分かなどの「カリキュラム・マネジメント」の視点を持ち、できることから、学校をよりよくする第一歩を踏み出していきたいと思います。

# キーワード 7

## 地理総合／歴史総合

現代社会の課題を考察するための  
知識・技能、視点を学ぶ科目

「地理総合」は、GIS（\*1）・グローバル・ESD（\*2）・防災の4分野を設け、地理的技能を身につけたり、諸課題を考察したりする。「歴史総合」は、現行課程の「世界史A」「日本史A」を融合し、近現代

図7 「地理総合」「歴史総合」の特徴

地理総合	持続可能な社会づくりを目指し、環境条件と人間の営みとの関わりに着目して現代の地理的な諸課題を考察する科目	グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目	地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目
歴史総合	世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉えて、近現代の歴史を理解する科目	歴史の推移や変化を踏まえ、課題の解決を視野に入れて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目	歴史の大きな転換に着目し、単元の基軸となる問いを設け、資料を活用しながら、歴史の学び方（「類似・差異」「因果関係」に着目する等）を習得する科目

出典/中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

に焦点を当てた内容になる（図7）。

「現代的な諸課題の形成にかかわるといふ点から、『歴史総合』は現代の事象に絞られているのでしようが、2単位という点からもそれが適切だと思われます」（高木先生）

両科目とも学習内容に関心が集まるところだが、「次期学習指導要領では、『何を教えるか』だけではなく、『どのような力を育むか』がより明確に打ち出されます。教科書をどのように活用して『資質・能力』を育成していくかという視点を忘れてはならないと思います」と、高木先生は指摘する。教科・科目・単元の各目標を踏まえた上で授業の主題を決め、いかに生徒の理解や思考を深める問いを設定できるかが、「資質・能力」の育成の鍵になるといふ。授業では、学習評価の3つの観点に応じた活動が必須になると、高木

先生は説明する。

「3観点にはいずれも主体的な活動を通して伸びる力が含まれており、どの観点を評価するとしても活動が盛り込む必要があります。ですから、技能を高めるのか、表現力を育成するのか、主体的に取り組む態度を養うのかなど、活動のねらいを明確にし、育成したい力を意識して問いや教材を工夫することが大切です」

例えば、「地理総合」では、一般図から情報を読み取るのが「技能」、思考・判断した概念を主題図で表すのが「表現力」、主題図を活用して社会に働きかけるのが「態度」にある。それを意識するだけでも、授業は大きく変わると、高木先生は語る。高木先生がもう1つ注意点として挙げたのが、「深い学び」だ。「『深い学び』は、『深い知識』だけを指すものではありません。『見方・考え

方』を鍛える深い学びを実現するためには、生徒が知りたい、考えたいと思う問いにすることが重要であり、用意された結論に導く議論では、生徒は考えるのを止め、教師の答えを待つようになってしまいます。現代的な課題は、答えが1つではありません。教師が生徒の多様な答えを受け入れる姿勢を持つことが、深い学びの実現には欠かせないでしょう」

### 読み解きポイント

1. 「地理総合」はGIS、グローバル、ESD、防災の4分野、「歴史総合」は近現代に焦点を当てた内容
2. 現代的な課題は答えが1つではないこともあり、教師には生徒の多様な答えを受け入れる姿勢が求められる

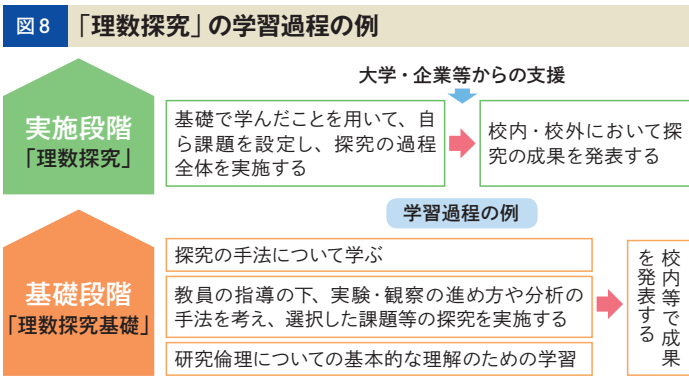
\*1 Geographic Information Systemの略。地理情報システムのこと。地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。 \*2 Education for Sustainable Developmentの略。「持続可能な開発のための教育」と訳される。環境、貧困、人権、平和、開発などの様々な課題を、自らの問題として捉え、身近なところから取り組むことで、課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと。そして、それによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動のこと。



# 理数探究

## 数学的・理科学的な手法で 自然事象や社会事象を探究する

「理数探究」は、多角的・複合的な視点で事象を捉え、数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を活用したり、組み合わせたりしながら探究的な学習を行うことで、新たな価値の創造に向けて粘り強く挑戦する力の基礎を培うことをねらいとした



\* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」を基に編集部で作成

科目だ。生徒自ら探究の過程全体を遂行できるよう、2段階で構成される。「理数探究基礎」では、探究に必要な基礎事項を学び、主体的に探究に取り組み態度を身につけ、「理数探究」では、生徒が自ら課題を設定し、探究を進める(図8)。

本科目が設置された背景には、PISAで3分野(\*)ともに高い成果が出た一方、児童生徒の算数・数学、理科を学ぶ楽しさや学習する意義への肯定感は諸外国に比べると低く、学校段階が上がるにつれて低下しているという課題がある。

「小学校では夏休みの自由研究などで多くの児童が探究的な学習を行っているようですが、高校では、既成事実の検証はしても、自分でデータを集め、解釈するといった活動はあまりされていません。学んだことを活用する場面があつてこそ、学びの興味を感じるものであり、『理数探究』は高校での探究的な学習を充実させ

るのが目的と言えます」(岩田先生)

SSH指定校では、数学・理科にわたる探究的な学習を行い、指導のノウハウが確立され、生徒の意欲や関心の向上も見られている。「理数探究」では、それらの成果を踏まえつつ、SSHのような支援がなくても実施できる基礎的な内容になるだろうと、岩田先生は説明する。

「曖昧さや不確かさがあつても、事実を基に自分の頭を働かせて答えを追い求める。それは、どの生徒にとつても社会に出てから必要となる力であり、すべての生徒に育みたい力です。また、『理数探究』と言うと自然科学的な課題に取り組むと思いがちですが、社会科学でも、経済、人口、出生率など、数学的な見方・考え方が必要となるテーマはたくさんあり、どのような学校でも取り組める課題はあります」

本科目は、研究成果よりも、学習の過程を重視する科目である。その

ため、思考の過程やそこにおける態度を評価することが必要で、「知識量のみを問うペーパーテストの結果だけで評価しないことが大切」と、岩田先生は強調する。

科目の具体的な内容は今後の決定となるが、「理数探究基礎」では、探究する上で必要な基礎事項を示した教科書が製作される予定だ。また、履修単位を「総合的な探究の時間」の単位に替えられるようにする方向で進んでいる。

### 読み解きポイント

1. 自然科学的なテーマだけでなく、社会科学的なテーマも探究の対象となる
2. 目的は、研究成果を出すことではなく、探究の過程を通じて、新たな価値創造に向けて粘り強く挑戦する力を養うこと

\* 数学的リテラシー、科学的リテラシー、読解力のこと。

# キーワード 9

## 総合的な探究の時間

自分なりの問いを立て、その解決に向けて「探究」する力の育成を強化

「総合的な学習の時間」（以下、総合学習）は、名称を「総合的な探究の時間」とし、より探究的な学習を重視する方向性が示された。

「多くの学校で行われている調べ

図9 総合的な探究の時間において育成を目指す資質・能力の整理（高校）

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
<ul style="list-style-type: none"> <li>◎課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する知識（及び概念）</li> <li>◎課題について横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して獲得する技能</li> <li>◎探究することの意義や価値の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎探究することを通して身に付ける課題を見だし解決する力                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定</li> <li>・情報収集</li> <li>・整理・分析</li> <li>・まとめ・表現 など</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎主体的に探究することの経験の蓄積を信念や自信、自己肯定感につなげ、さらに高次の課題に取り組もうとする態度を育てる。</li> <li>◎協同的（協働的）に探究することの経験の蓄積を自己有用感や社会貢献の意識へとつなげ、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。 など</li> </ul>

出典／中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

学習は大切ですが、調べた内容がそのまま課題の答えになるとは限りません。多様な意見や考え方を広く受け入れ、自分なりの問いを立てて解決に向かう力を伸ばす指導を行ってほしいというメッセージが、『探究』の言葉に込められていると思います」（恩田校長）

答申では、各教科等における「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせ、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら問い続ける重要性が示されている。小・中学校で行われている教科横断的な総合学習の取り組みの成果を生かし、高校の「総合的な探究の時間」では、生涯にわたって探究する能力を育むための総仕上げとしての位置づけが強調されている（図9）。

「進路行事を複数回行って『総合学習』とする高校もあるようですが、

進路選択に関する取り組みは特別活動に位置づけるべきものです。変化の激しい時代を生き抜くために必要な力を身につけさせる指導とは何か、各学校が考えていかなければなりません」（恩田校長）

「理数探究」とのすみ分けとして、教科横断的、かつ社会とのかかわりの中で探究を進めるため、文理融合を実感できる活動がよいと、恩田校長は指摘する。

答申では、本教科の目標や内容は、学校教育目標やミッションを体現するものとなるべきであり、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの鍵となる教科に位置づけられている。

「従来の指導に加えて、探究的な学習を行うことは現場の大きな負担になりますから、本校では教科学習と探究的な学習にバランスよく取り組んでいます。教科学習の内容は精選

### 読み解きポイント

1. 各教科との学びを統合し、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、生涯にわたって探究する能力を育む
2. 学校教育目標を具現化し、教科横断的な探究的な学習とするために、カリキュラム・マネジメントの実現が必要

してはいますが、探究的な学習を通して学ぶ姿勢や学び方が身につくことで、生徒は自身の力で学びに向かうようになり、偏差値だけによる進路指導からの脱却が図れています。各学校では、学校教育目標を踏まえて探究的な学習の位置づけを議論し、身につけさせたい資質・能力を学校全体で育成できる教育課程を編成することが重要でしょう」（恩田校長）